



推進本部だより

カトリック広島司教区平和の使徒推進本部

2015年度広島教区年間テーマ

チャレンジ 新しい福音宣教 わたしを
お使いください
— 家庭へのチャレンジ —

世界平和の日

カトリック教会の一年は、「平和の祈り」によって始まります。

1月1日は、「世界平和の日」です。

教皇パウロ六世は、1967年1月2月8日、ベトナム戦争が激化するなか、1月1日を平和の日とし、平和のために特別な祈りをささげるように呼びかけました。それ以来、全世界のカトリック教会は、1月1日を「世界平和の日」とし、平和のために祈り続けています。

毎年この日のために教皇メッセージが出されますが、今年もまた教皇フランシスコは、「無関心に打ち勝ち、平和を獲得する」というテーマの力強いメッセージを発表しました。

教皇フランシスコはこのメッセージの中で、「イエスは御父のようにいつくしみ深くなるよう、わたしたちに教えます(ルカ6・36参照)。善いサマリア人のたとえ話(ルカ10・29～37参照)では、隣人の差し迫った必要にも応えず、「道の向こう側を通る人」(ルカ10・31～32参照)を非難しています。」⁽¹⁾と語り、わたしたちが、無関心を克服し、「この世の苦しみを和らげ、他者の傷をいやすために立ち止まるように」⁽²⁾と呼びかけています。

「全ての国の人々の友愛と平和のしるし」である世界平和記念聖堂で、わたしたちは、1月1日だけではなく、今年一年を通じて「平和の祈り」をささげながら「無関心に打ち勝ち、

平和を獲得する」努力をし、「平和の使徒」として日々を生きて行くことをめざしましょう。

(1)(2)「2016年「世界平和の日」教皇メッセージ 『無関心に打ち勝ち、平和を獲得する』抜粋

イエスは御父のようにいつくしみ深くなるよう、わたしたちに教えます(ルカ6・36参照)。善いサマリア人のたとえ話(ルカ10・29～37参照)では、隣人の差し迫った必要にも応えず、「道の向こう側を通る人」(ルカ10・31～32参照)を非難しています。同様に、イエスはこの模範を示すことによって、聴衆、とりわけご自分の弟子たちに、どんなに忙しくても、自分の時間とあらゆる手段を用いて、この世の苦しみを和らげ、他者の傷をいやすために立ち止まるよう呼びかけておられます。実際、無関心には、口実がつきものです。祭儀の規則に従う、やるべきことが沢山ある、敵対しているために疎遠になっている、さまざまな先入観によって近づけないといった口実です。

※ローマ教皇フランシスコの「平和メッセージ」は、カトリック中央協議会ホームページ(<http://www.cbcj.catholic.jp/jp/n/doc/peace/16peace.htm>)で邦訳全文が掲載されています。

推進本部ホームページ(<http://cpap.hiroshima-diocese.net/?p=9956>)には関連情報を掲載しています。

ローマ教皇最近のツイート

暴力と憎しみのあるところでキリスト者は、愛である神を証しするよう呼ばれています(2015年11月30日)

いつくしみの聖年は、神が両手を広げて私たちが待っていることを思い起こさせます。それは、放蕩息子の父のようです(2015年12月01日)

これまで以上に寛大で、喜びにあふれ、聖性に満たされてキリストを宣べ伝える、新しい人々の時代がやってきました(2015年12月01日)

日々の日課の一つ。キリストのいつくしみを、それを最も必要としている人に届けること(2015年12月14日)

迫害に苦しむキリスト者のために祈りましょう。恥ずべきことですが、多くの場合、皆は彼らを見捨てています(2015年12月27日)

世が快適さと利己心の中でうたた寝している時、私たちキリスト者の使命は、彼らが目覚めるよう助けることです(2016年01月08日)

主な教会暦(主日を除く)

01月01日 神の母聖マリア(祭日)
01月03日 主の公現(祭日)
01月10日 主の洗礼(祝日)
01月25日 聖パウロの回心(祝日)



(ホームページ)